

令和7年度 社会福祉法人 開成会 事業計画

昨今の社会経済情勢に伴う物価高騰や賃金上昇等で、社会福祉法人を取り巻く経営環境状況は厳しいものとなっております。

さて、社会福祉法人は、地域共生社会の実現に向け、地域の様々な課題に向き合うとともに、安定的かつ質の高い福祉サービスの提供を継続することが求められています。

このような状況の中、本会は、コンプライアンス遵守し、職員の資質向上に努めるとともに、事業の多角化など新たな事業展開を視野に入れてガバナンスの強化を図りたいと存じます。

また社会福祉法人は、これまで以上に高い公共性・公益性が求められています。そのためには「透明性」を高め、かつ「安定性・継続性」を確保した法人経営が大切と存じます。

大藤園、王司山田園とも、利用者の人権を常に尊重し、サービスの質の向上に努め、利用者が安全で快適な生活が送れるように支援したいと存じます。

令和7年度 大藤園 事業計画

令和7年度は、当園の運営や活動が活発に展開できることと存じます。

主な年間行事は、昨年に引き続き9月大藤園まつり、10月一泊旅行、令和8年1月新年会等を予定し、毎月の行事等も工夫して実施したいと存じます。

施設運営につきましては、基本理念と支援方針に基づいて、生活介護事業に相応しいカリキュラムのより一層の充実を行い、利用者一人ひとりが、安全で安心して豊かな生活が送れる環境を整備したいと存じます。

また、支援体制は、職員が「チーム」体制で対応し、特に職員間の連絡、報告を密にして、今まで以上にサービスの質を向上し利用者の支援が行えるようにしたいと存じます。職員は、当園にとってかけがえのない「人財」であり、限られた人数で最大限の力を発揮できる体制づくりが大切なことと存じます。

経営面につきましては、収入面では厳しい状況ではありますが、限られた財源を有効に活用するため、できるだけムダを減らすなど“節約”に努め、健全な収支バランスに努めたいと存じます。

開園日は、1年間で休園日を振り分けて、年間269日（休園日96日）で営業することといたします。

1. 報酬

□生活介護サービス費（報酬）

支援区分	6	5	4	3
新単位	1,049	775	533	475

（1単位は10円）

2. 利用者の動静、支援区分

令和7年度は、56名のスタートとなる。

令和6年度当初の利用者数57名（週1日利用者含む）から1名が退園した。

令和7年度は、新規通園者はなし。

□利用者の支援区分

（令和7年4月1日現在）

支援区分	6	5	4	3	合計
男性（人）	6（6）	11（12）	14（12）	6（7）	37（37）
女性（人）	0（0）	3（4）	8（8）	8（7）	19（19）
合計（人）	6（6）	14（16）	22（20）	14（14）	56（56）

（ ）は令和6年度末人数

※利用者の状況

区分	内容
平均年齢	38歳2ヵ月
平均通所年数	18年9ヵ月
障害の程度（総合判定）	知的障害者（療育手帳A判定33人、B判定22人、不明1人）
その他	<u>重度障害者支援加算該当者14人（うちⅡ3人Ⅲ11人）</u> R6(13人) <参考> ※ダウン症11人、自閉症傾向にある者19人てんかん12人

3. 職員体制

職員の人数については、前年度に生活支援員(パート職員1名採用 R6.4月、1名退職 R7.1月)があった。令和7年度は、職員配置基準を基に対応したい。

□ 令和7年度は、職員総数 23名 (令和7年4月1日現在)

＜常勤職員11名・パート職員(12名)＞

＜内訳＞

園長(事務長兼務)	1名
サービス管理責任者(常勤専従)	1名
生活支援員(内1名事務員兼務)	常勤 8名 (パート) (3)名
看護師	(パート) (1)名
栄養士	常勤 1名
調理員	(パート) (3)名
送迎員	(パート) (5)名

* 医師については、嘱託医(浜田内科クリニック)に委託している。

4. 支援計画等

別冊 「令和7年度年間支援計画書」のとおり

5. 予算編成について

(収入の部)

給付費収入は、利用者56名を支援区分ごとに積算し、利用率91%として予算計上した。

(支出の部)

- ① 人件費支出は、職員総数23名(常勤11名・パート12名)と生活支援員1名程度補充することで予算計上した。
- ② 事業費、事務費支出は、前年度実績額を基に積算し、予算計上した。
- ③ 令和7年度資金収支予算(案)で、当期資金収支差額△26,490千円となった。
- ④ 社会福祉充実計画に伴う土地造成費(完成時支払分)、借入金償還支出を計上した。